

■弊社、根こぶ病強度汚染圃場 栽培試験結果

栽培地：宮城県大崎市古川

播種日：2020年8月14日 播種 調査日：10月29日 調査

10月29日撮影（写真下）



品種特性表

品 種	熟期 (日)	草姿	葉色 淡:1~5:濃	球頭の 被り	球重 (kg)	根こぶ病 耐病性*1	黒腐れ病 弱:1~5:強	ゴマ症 多:1~5:極少
祭典ネオ70(TC9112)	70~73	立	5.0	浅い	2.8~3.0	◎	4.0	5.0
秋の祭典	70~73	立	5.0	浅い	2.8~3.0	○	4.0	5.0
黄愛65	65	立	4.0	中	2.8~3.0	○	4.0	5.0
他社品種A	75	立	4.0	中	2.9~3.1	◎	3.0	4.5
他社品種B	67~70	立	4.0	中	2.8~3.0	○	4.0	4.0

*1 ◎:強度耐病性、○:従来のCR品種の耐病性

■根こぶ病は以下の項目を組み合わせた総合的な防除が重要です。

1. 根こぶ病抵抗性品種の作付け

「祭典ネオ70」のように強度耐病性の品種ほど安心で、収量も安定します。また、「祭典ネオ70」は根こぶ病の他、細菌病はじめ、葉の病害にも比較的強く、栽培容易です。（根こぶ病は各地域の菌系、菌密度によっては発病するかもしれません。）

2. 土壌pHの改善と土壌排水性の改善

酸性土壌で発病しやすいので、pH6.5を目標に石灰資材を施用。また、高畦や明・暗渠により排水性を改善します。

3. 薬剤による防除

発病土壌では殺菌、静菌作用のある薬剤の施用。

4. アブラナ科野菜の連作回避。

アブラナ科野菜の連作を避け、できれば3~4年は作らず輪作体系を図ります。

5. おとり作物の作付け

前作に「おとり葉大根」などの作付することにより、発病を抑制できます。

6. その他

石灰窒素や転炉スラグを施用し、土壌酸度を矯正することで発病を抑制できます。